

平成26年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年6月26日

上場取引所 東

上場会社名 夢の街創造委員会株式会社

コード番号 2484 URL <http://www.yumenomachi.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 中村 利江

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理グループ

(氏名) 金子 正輝

TEL 03-6880-3851

四半期報告書提出予定日 平成26年7月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年8月期第3四半期の連結業績(平成25年9月1日～平成26年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年8月期第3四半期	2,609	112.6	316	77.4	312	77.4	109	125.4
25年8月期第3四半期	1,227	—	178	—	176	—	48	—

(注)包括利益 26年8月期第3四半期 76百万円 (△33.1%) 25年8月期第3四半期 114百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年8月期第3四半期	11.23	10.90
25年8月期第3四半期	4.67	4.59

(注)当社は、平成25年3月1日付で普通株式1株につき100株、平成26年4月19日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	円 銭	%	円 銭	
26年8月期第3四半期	3,010	—	1,988	65.9	201.79	—	201.79	
25年8月期	2,962	—	1,986	67.0	207.14	—	207.14	

(参考)自己資本 26年8月期第3四半期 1,983百万円 25年8月期 1,985百万円

(注)当社は、平成25年3月1日付で普通株式1株につき100株、平成26年4月19日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年8月期	—	0.00	—	8.00	8.00
26年8月期	—	0.00	—	—	—
26年8月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)平成26年8月期(予想)配当金につきましては、現時点において未定です。具体的な配当金額につきましては、決定後速やかに公表します。

3. 平成26年8月期の連結業績予想(平成25年9月1日～平成26年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,600	72.5	430	54.4	417	51.8	198	104.8	20.14

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注)当社は、平成26年4月19日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、四半期決算短信(添付資料)3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、四半期決算短信(添付資料)3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年8月期3Q	11,097,600 株	25年8月期	11,097,600 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年8月期3Q	1,266,800 株	25年8月期	1,511,600 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年8月期3Q	9,736,626 株	25年8月期3Q	10,395,400 株
----------	-------------	----------	--------------

(注)当社は、平成25年3月1日付で普通株式1株につき100株、平成26年4月19日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、経済情勢等様々な不確定要素によりこれらの予測数値と異なる場合があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成25年9月1日から平成26年5月31日)につきまして、当社グループは、今期の基本方針である「出前館の持続的成長」と「新たな事業の柱の構築」の実現に向けて、様々な施策に取り組んでまいりました。

ソチオリンピックのテレビ中継観戦や受験勉強のため、深夜時間帯でのドリンクや食事のデリバリー需要が高まることを想定し、2月3日から末日までの期間限定で実施いたしました26時(深夜2時)までの深夜デリバリーサービスですが、多くのお客様からご好評をいただいたため、3月1日以降も続行することを決定し、継続しております。5月の深夜時間帯における1日当たりオーダー件数は、2月実績との比較で136.5%と増加しており、サービスの認知度、浸透度が高まった結果と捉えております。

3月19日付で株式取得および業務提携契約締結を行いました株式会社ベアハグと協働で展開する「宅配・訪問型リラクゼーションサービス」ですが、4月20日から出前館上で受付を開始いたしました。潜在的なニーズはあるにもかかわらず、安心安全の面で懸念を感じ、利用に踏み切れないケースが多いと推測される宅配・訪問型のリラクゼーションサービスの提供にあたり、自宅で安心して、ベアハグ認定の高いスキル、豊富な経験を持つリラクゼーションセラピストやスポーツトレーナー整体師の施術を受けていただけるよう、出前館の注文画面上で技術者の名前や性別、スキルを確認しながら指名選択し、訪問時には身分証明書を提示する仕組みを構築いたしました。現在は、都内の一部でのサービス提供となっておりますが、将来的には、ガイドラインを作成し、全国にサービス展開を行うことで、新しいビジネスモデルの確立を目指してまいります。

4月28日には、昨年12月26日付で子会社化いたしました株式会社ZENが運営する日本最大級のシニア向けSNSサイト『シニア・ナビ』の主催により、「アクティブシニアの日2014」を開催しました。4(シ)月28(ニア)日の語呂合わせに因んで日本記念日協会に登録した「アクティブシニアの日」に多くのシニアの方々に楽しんでいただくことを目的に、2013年よりスタートしたイベントとなります。2回目の開催となる今年は、会場およびネット来場者2,088人を動員し、盛況裡に終了しました。出前館からは、アクティブシニアにおすすめの出前の軽食とソフトドリンクを提供しましたが、たいへんご好評をいただき、今後のシニア向けの新規ビジネス展開にあたり、手応えを得ることが出来ました。

4月23日には名古屋、5月21日には福岡において、デリバリーの実施を検討中の飲食店様対象に、出前・デリバリービジネスを成功させるヒントと実践ノウハウの共有をテーマとした「飲食店は出前で勝つ!」セミナーを開催いたしました。本セミナーは、これまでは東京と大阪でのみ開催しておりましたが、現在のデリバリー業界の分析や「出前館」で蓄積されたデータをもとにした当社社員による講演に加えて、実際にデリバリーで成功されている飲食チェーン店のオーナー様にお話しいただくことでたいへん好評を得ており、今期から地方でも開催することといたしました。セミナー参加後に出前館へ加盟いただく店舗様も増加して来ており、出前をオーダーする際の選択肢が増えることで、地方エリアのユーザー様の満足度向上、オーダー数増加につながるものと考えております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,609,047千円(前年同四半期比112.6%増)、経常利益は312,443千円(前年同四半期比77.4%増)、四半期純利益は109,314千円(前年同四半期比125.4%増)となりました。

区分	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)		増減	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	増減率(%)
出前館事業						
基本運営費	202,344	16.5	204,209	7.8	1,864	0.9
オーダー手数料	665,864	54.3	746,810	28.6	80,946	12.2
広告収入	53,414	4.4	49,694	1.9	△3,720	△7.0
その他	144,761	11.7	180,726	7.0	35,965	24.8
小計	1,066,384	86.9	1,181,440	45.3	115,055	10.8
通信販売事業	160,882	13.1	1,427,607	54.7	1,266,724	787.4
合計	1,227,267	100.0	2,609,047	100.0	1,381,780	112.6

(注)「通信販売事業」の区分は、株式会社薩摩恵比寿堂であります。前第3四半期連結累計期間の通信販売事業の売上高は、同社が平成25年5月17日より当社の連結子会社となったため、平成25年5月1日から平成25年5月31日までの売上高を記載しております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①出前館事業

出前館事業セグメントにおきましては、当第3四半期連結会計期間末における会員数は約609万人を突破いたしました。また、加盟店舗数は11,482店舗、オーダー数に関しましては約653万件となっております。その結果、当第3四半期連結累計期間の出前館事業セグメントにおける売上内訳は、基本運営費204,209千円、オーダー手数料746,810千円、広告収入49,694千円、その他180,726千円、セグメント売上高は1,181,440千円（前年同四半期比10.8%増）となりました。

②通信販売事業

通信販売事業セグメントにおきましては、機動的なコールセンターを運営し、高品質な焼酎を中心に、飲食店向けの通信販売を行っております。当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,427,607千円（前年同四半期比787.4%増）となっております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における流動資産残高は、前連結会計年度末比で106,199千円減少し、1,543,307千円となりました。減少の主な要因は、仕掛品が150,496千円増加した一方、現金及び預金が272,948円減少したこと等によるものであります。

固定資産残高は、前連結会計年度末比で154,014千円増加し、1,466,808千円となりました。増加の主な要因は、ソフトウェアが43,239千円、のれんが55,262千円減少した一方、投資有価証券が228,692千円増加したこと等によるものであります。

以上により総資産残高は、前連結会計年度末比で47,814千円増加し、3,010,116千円となりました。

流動負債残高は、前連結会計年度末比で113,430千円増加し、692,792千円となりました。増加の主な要因は、支払手形及び買掛金が25,428千円減少した一方、その他流動負債が113,113千円増加したこと等によるものであります。

固定負債残高は、前連結会計年度末比で67,609千円減少し、328,556千円となりました。減少の主な要因は、長期借入金67,672千円減少したこと等によるものであります。

純資産残高は、前連結会計年度末比で1,993千円増加し、1,988,767千円となりました。増加の主な要因は、四半期純利益を109,314千円、自己株式の処分62,248千円計上した一方、剰余金の配当を38,344千円、その他有価証券評価差額金を32,893千円、自己株式の取得を101,332千円計上したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年8月期の連結業績予想につきましては、平成26年3月24日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(税金費用の計算方法の変更)

従来、当社及び連結子会社の税金費用については、原則的な方法により計算しておりましたが、四半期決算業務の一層の効率化を図るため、グループ全社において第1四半期連結会計期間より連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。なお、この変更による影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,257,759	984,810
受取手形及び売掛金	182,456	195,459
商品及び製品	58,052	54,616
仕掛品	—	150,496
未収入金	120,345	129,491
繰延税金資産	12,625	14,901
その他	27,001	24,450
貸倒引当金	△8,734	△10,917
流動資産合計	1,649,506	1,543,307
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	43,859	48,882
減価償却累計額	△15,679	△16,291
建物及び構築物(純額)	28,179	32,590
土地	64	64
その他	132,985	137,426
減価償却累計額	△118,904	△113,965
その他(純額)	14,081	23,460
有形固定資産合計	42,324	56,115
無形固定資産		
ソフトウェア	411,941	368,702
ソフトウェア仮勘定	29,362	5,827
のれん	506,630	451,368
その他	138	138
無形固定資産合計	948,072	826,036
投資その他の資産		
投資有価証券	255,046	483,739
繰延税金資産	6,317	19,565
差入保証金	28,748	41,176
その他	34,246	42,478
貸倒引当金	△1,963	△2,302
投資その他の資産合計	322,396	584,656
固定資産合計	1,312,794	1,466,808
資産合計	2,962,301	3,010,116

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	175,768	150,339
1年内返済予定の長期借入金	100,836	104,976
未払金	187,584	202,296
未払法人税等	62,196	68,917
賞与引当金	11,840	12,013
その他	41,135	154,249
流動負債合計	579,361	692,792
固定負債		
長期借入金	375,621	307,949
その他	20,544	20,607
固定負債合計	396,165	328,556
負債合計	975,527	1,021,349
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,113,300	1,113,300
資本剰余金	664,400	664,400
利益剰余金	754,724	746,192
自己株式	△581,016	△542,129
株主資本合計	1,951,409	1,981,764
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	32,893	—
為替換算調整勘定	1,381	1,992
その他の包括利益累計額合計	34,274	1,992
新株予約権	1,089	4,609
少数株主持分	—	401
純資産合計	1,986,773	1,988,767
負債純資産合計	2,962,301	3,010,116

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)
売上高	1,227,267	2,609,047
売上原価	396,333	1,009,613
売上総利益	830,933	1,599,433
販売費及び一般管理費	652,524	1,282,982
営業利益	178,409	316,451
営業外収益		
受取利息	599	147
受取配当金	—	400
為替差益	—	536
その他	1,642	3,086
営業外収益合計	2,242	4,170
営業外費用		
支払利息	216	4,078
支払手数料	945	627
持分法による投資損失	—	2,755
貸倒引当金繰入額	3,075	—
為替差損	224	—
その他	99	716
営業外費用合計	4,561	8,178
経常利益	176,089	312,443
特別利益		
投資有価証券売却益	23,143	—
持分変動利益	—	7,328
新株予約権戻入益	12,925	—
事業譲渡益	—	1,008
その他	—	152
特別利益合計	36,068	8,488
特別損失		
固定資産除却損	9,235	812
減損損失	79,526	1,009
投資有価証券評価損	—	72,108
関係会社株式評価損	16,289	—
その他	3,890	4,042
特別損失合計	108,941	77,973
税金等調整前四半期純利益	103,216	242,958
法人税、住民税及び事業税	53,449	—
法人税等調整額	1,270	—
法人税等	—	133,873
法人税等合計	54,720	133,873
少数株主損益調整前四半期純利益	48,495	109,084
少数株主損失(△)	—	△229
四半期純利益	48,495	109,314

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	48,495	109,084
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	65,437	△32,893
為替換算調整勘定	836	611
その他の包括利益合計	66,274	△32,282
四半期包括利益	114,769	76,802
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	114,769	77,050
少数株主に係る四半期包括利益	—	△247

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間(自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	合計 (注) 3
	出前館事業	通信販売事業 (注) 1	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,066,384	160,882	1,227,267	—	1,227,267
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,066,384	160,882	1,227,267	—	1,227,267
セグメント利益	347,045	2,063	349,109	△170,700	178,409

(注) 1. 「通信販売事業」の区分は、株式会社薩摩恵比寿堂であります。なお、株式会社薩摩恵比寿堂は、平成25年5月17日より当社の連結子会社となったため、平成25年5月1日から平成25年5月31日までの売上高及びセグメント利益を記載しております。

2. セグメント利益の調整額△170,700千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

II. 当第3四半期連結累計期間(自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	出前館事業	通信販売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,181,440	1,427,607	2,609,047	—	2,609,047
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	22,789	22,789	△22,789	—
計	1,181,440	1,450,396	2,631,836	△22,789	2,609,047
セグメント利益	452,623	102,713	555,336	△238,885	316,451

(注) 1. セグメント利益の調整額△238,885千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。